

2019 年度平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業

「HIROSHIMA and PEACE」

Nikita Lobko (ロシア、クラスノダール)

耳をつんざく轟音、目が眩むような光、そして焼けつくような地獄の火の爆発。何年経っても、傷跡や火傷が人の肌や脳裏からただ消え去ることなどないでしょう。あの 2 日間は永遠に恥として歴史に残るのです。これが広島と長崎—非人道的な破壊力によって全滅させられ、人類史上最大の過ちの一つである核兵器の使用を象徴すべく復興を遂げた 2 つの都市—について私の学んだことです。

これは平和首長会議夏期コースに参加している間に私が得たかなり文学的なイメージです。しかし、新しく蓄えられた知識はこうした嘆きにとどまることなく、さらに進んで政治、若干の生物学と医学、そして私自身に関心のある領域、つまり日本の国内的課題の範囲にまで及んでいます。これに加えて、広島市立大学のコースは実に得るものが多く、核兵器の歴史とその不吉な展望について学び、被爆者自身から体験談を聞き、生態系内の放射性原子の全ライフサイクルをしっかりと理解するなどといったことは、本当にためになり、折に触れ驚きを覚えました。

コース全般では、人類圏とその環境に放射性粒子が与えるあらゆる影響に関する講義に強い感銘を受けました。この星の隅々にまで粒子が制御されずに広く拡散していることを知るのには重要なことです。地球のまわりを渦巻いている放射性粒子の推定数には、地球という惑星の現在の状況、そして世界とそこに生息する人類両方の未来について深く考えさせられました。あらゆる種類の核兵器や原子力発電所が発する放射線は、私たち地球人すべての安寧にとてつもない危険をもたらしており、制御しなければなりません。

世界中の核兵器の総数は相当なものであり、その原料などの枯渇は多くの国（主に 2 つの主要核保有国、アメリカとロシア）の市民を攻撃されやすい立場に置くというもうひとつの脅威となっています。背景にあるのは、こうした保有量の大半は歴史年表をかなり遠くさかのぼる冷戦時代に獲得されたものだという事実であり、また永遠に続くものはないという事実です。つまりある日、どこかの爆弾が爆発して広いエリアを壊滅的な放射線にさらし、分解するのに何千、何百万年もかかる数十億の放射性粒子を大気中に放出するかもしれないということなのです。

私がもう一つ広島で学んだことは、至るところにある日本の平和の精神、調和と秩序の感覚です。それが戦時の結果か、または文化的な特徴の表れか、あるいはその両方なのか—私にはまだはっきりわかりませんが、存在することは紛れもない事実です。またよりよい現在と未来への道作りのために、日本が自らの過去と歴史全般を見直すことができる国家であるという嬉しい兆候です。

正直、講義を通じて現状について学んでみて、平和首長会議の理念に近い将来に実を結ぶだろうとは思いません。日本においてさえも、計り知れない規模の政治的、経済的な課題に囲まれているからです。ここにさらに、原子力エネルギーがもたらす危険性への（コース参加前の私と同じく）平均的な人間の皮相な見方があります。加えて、こうしたかなり広範な諸問題に少なくともある程度関心があり、学んで力になりたいという意欲のある層は貧弱です（この大学のコースの参加者数を少し考えてみても—34 人というのはあまりに少ないよう

に思いませんか?)。

平和首長会議への私の提案は、第一に、できるかぎり多くの（主に戦争／劣悪な福祉、人権の侵害がある）国や都市へ拡大を推進し、核兵器禁止条約や平和支持活動を進んでサポートする世界中の若者たちによる強力な基盤づくりを目指すことです。第二に、広島市立大学と講演やセミナーのテーマに関して協働することは、こうしたトピックの包括性と魅力をより一層高めるために不可欠であり、事後の学生からのフィードバックを活発化させるでしょう。私にとって平和構築の主な障害の一つは文化的なアクセシビリティが低く、文化教育のクオリティが不足していることなので、世界中の文化教育機関との関係を集中的に発展させて活動を相互に促進させていくことは、非常によい決断になると思います。これだけでなく、文化の発展、そして子どもを文化性の高い環境に置くことは、人道的な志向をもつ人間となる優れた土台になるはずです。

平和首長会議がより非武装化・非核化された環境を構築するために、私には何ができるでしょうか。計画として考えているのは、まず、地元自治体と連絡を絶やさず、平和、そして核兵器不拡散条約や平和構築に関する深い懸念を広めるための活動の展開で協働することです。大学の講義ではグリーン・レガシー・ヒロシマというキャンペーンについて学ぶよい機会があり、これは故郷の町で実行に移すべき最も魅力的なプロジェクトだと思いました。74年前に起こった残虐行為を痛切に思い出させるものになるからです。これはすぐに実行に向けてぜひ努力したいことです。さらに、私は日本の平和構築に興味をもったので、関連するトピックで年次論文を書き、私自身の関心を高め、知識を深め、広島と長崎に関連するデータにロシア語話者が少し楽にアクセスできるようにしたいと思います。

これだけでレポートを締めくくることはできないので、あらためて、すべてにおいて、平和首長会議プログラムと大学でのコースに大変満足し、皆さんの一員になれたことを喜び、出会った全ての人たちを今も敬愛しているとお伝えします。皆さんの使命は素晴らしいものであるにもかかわらず、一定の成功に欠けています。私が学んだことすべてを考えると、それが残念でなりません。しかし、どんなに困難でも、私はできるかぎりお手伝いしたいと思います。